

塩江 まちづくり計画



目 次

第1章	はじめに	2
	1. 趣旨	
	2. 計画期間	
第2章	地区の概要と現状	2～6
	1. 位置、地勢	
	2. 人口・世帯の推移	
	3. 歴史、産業、教育・文化、地区組織	
	(1) 歴史	
	(2) 産業	
	(3) 教育・文化	
	(4) 地区組織と主な年間行事	
第3章	地区の実情・実態	7
	1. 区民アンケート	
	2. アンケート調査結果	
	3. これからの地域づくり（アンケート結果から）	
第4章	地域づくりの基本構想	8
	1. 施設整備	
	2. 防災・防犯	
	3. 地域コミュニティ	
	4. 地域事業の取り組み	
第5章	地域づくり計画の実現に向けて	9～11
	1. 地区施設整備	
	(1) 集会施設の改修	
	(2) 道路環境	
	(3) 墓地・参道の整備、庵寺の改修等	
	2. 防災・防犯の取り組み	
	3. 地域コミュニティづくり	
	4. 地域事業の取り組み	
	(1) 空き家対策	
	(2) 移住・定住促進	
	(3) 少子高齢化対策	
	(4) 婚活事業	
資料		11～12
	1. 地区役員及び計画推進員	
	2. 経過記録	
塩江まちづくり計画アンケート	集計結果	13～18

塩江まちづくり計画

第1章 はじめに

1. 趣旨

塩江地区は、昭和30年頃は500人を超える区民が生活し賑わいをみせていましたが、その後、織物業の不況、若者の都市部への流出、未婚・少子化などにより人口が減少し、現在（平成29年3月末）では182人となりました。子どもたちは少なく高齢者が多い典型的な「少子高齢化」で、高齢化率は40.1%、近い将来には「限界集落（地区内人口の2分の1が65歳以上）」に到達しそうな状況です。

この現状を区民一人ひとりが踏まえながら自治意識を抱き、地区が抱える将来への不安を軽減し、地域の活性化を取り戻しながら区民が生活しやすい地域づくりを目標をもって進めるために「塩江まちづくり計画」を策定します。



2. 計画期間

計画期間は、平成30年4月から平成40年3月までの10年間とし、社会情勢の変動などもあることから、計画策定後5年を目途に見直しを行うこととします。

なお、緊急・重大な事案が発生した場合は、地区役員会又は検討委員会あるいは区民の意見を聞いて見直しを行います。

第2章 地区の概要と現状

1. 位置、地勢

当地区は京丹後市の北側に位置し日本海に面し、府道浜詰網野線が曲がりくねって通ります。東は七竜峠を越えてさらに進むと磯地区・浅茂川地区へ、西は浜詰地区へと繋がります。地区内には公共施設や生活必需品を販売する商店はなく、列車やバスも通らないため自家用車は大切な移動手段で、日常的な交流は浜詰地区となります。

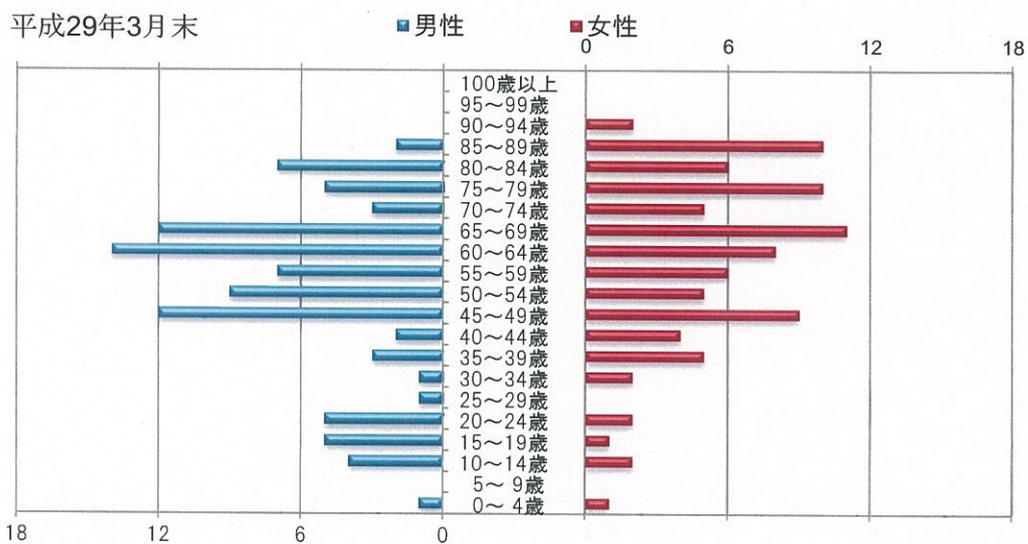
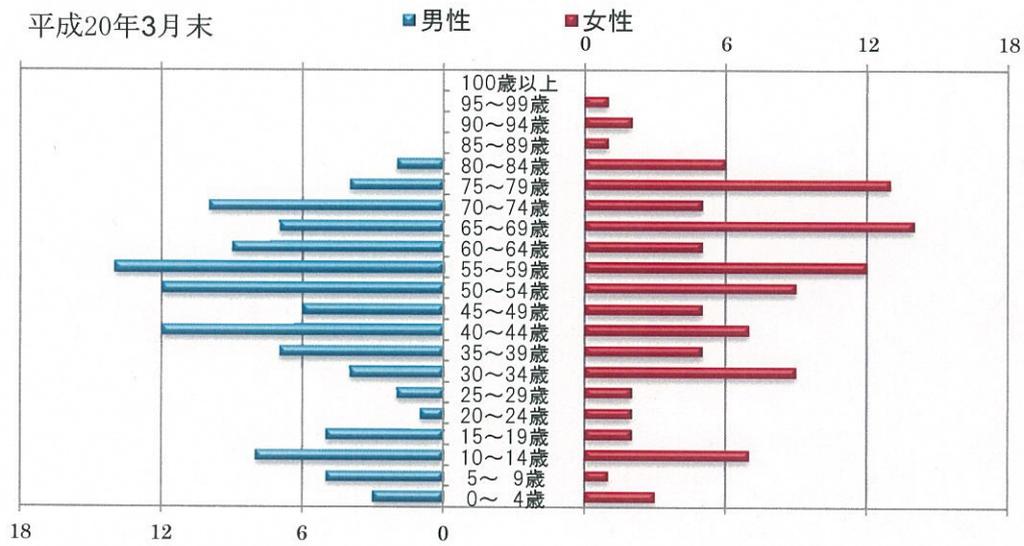
2. 人口・世帯の推移

地区内の人口・世帯数は、次表のとおりです。昭和30年は560人・99世帯でしたが、平成29年には182人・72世帯となり、378人・27世帯の減少です。1世帯当たりの平均人口では、5.6人から2.5人で3.1人の減少です。

(単位：人、世帯)

	昭和30年	平成10年	平成20年	平成29年
人口	560	294	222	182
男	262	139	111	93
女	298	155	111	89
世帯数	99	82	77	72

■人口ピラミッド



3. 歴史、産業、教育・文化、地区組織

(1) 歴史

塩江地区は、北側を日本海に面し三方を山で囲まれた地形で、日本海に面して段状に家屋が立ち並びます。古くは、浜詰部落（現在の浜詰地区）から移住したもので、漁業に転じるには舟の出入りが便利なこの地に移ったものと言い伝えられています。

(2) 産業

海と山に囲まれたこの地区は、耕地が少なく主な産業は織物業と漁業です。昭和40年から50年代は織物業や漁業が盛んで、地区のあちこちで朝から晩まで機織りの音が鳴り響き、漁港近くには浜詰浦漁業協同組合塩江事務所が建築されるほどの勢いがありました。しかし、生糸の自由化などによる織物業の長びく不況、一次産業の低迷、後継者不足などにより、織物業・漁業ともに従事する区民は少なく、地区の若者はサラリーマンやアルバイトなど地区外に職を求めます。

(3) 教育・文化

【教育】

旧網野町の西側、引原峠を越えた木津地区・浜詰地区・塩江地区は、総称して「橘地区」と呼ばれています。昭和40年代中頃までは木津地区・浜詰地区にそれぞれ保育所・小学校が設置され、塩江地区の児童は浜詰保育所・浜詰小学校に通い、中学は3つの地区の生徒が通う橘中学校でした。

その後、両小学校が統合して橘小学校となり、保育所も統合してたちばな保育所となりましたので、橘地域の子ども達は保育所から中学校まで同じ保育所・学校に通うこととなりましたが、児童・生徒の減少は止まらず、平成27年4月には橘中学校が網野中学校と統合して網野中学校へ通い、空校舎となった橘中学校は、橘小学校に改修されて地域児童が通っています。

ちなみに、平成29年5月の学校基本調査による橘小学校の全校児童は97人です。

	平成20年	平成25年	平成29年
橘小学校	196人(8クラス)	128人(7クラス)	97人(6クラス)
橘中学校	119人(5クラス)	94人(3クラス)	102人(3クラス)

※平成29年の橘中学校の数値は、平成26年学校基本調査の生徒数を記載（※学校基本調査より）

【文化】

「塩江初午」は、毎年3月第2日曜日に行われる祭りです。地区の青年たちがだんじりを担いで区内を練り歩き、塩江漁港では海上渡御を行います。クライマックスは、小高い丘の上にある早尾稻荷神社まで急勾配の石段を担ぎ上がり社に納められますが、近年は、青年層の担ぎ手が少なく、その勇壮な姿を観ることができません。地区住民は祭りの復活を待ち望んでいます。

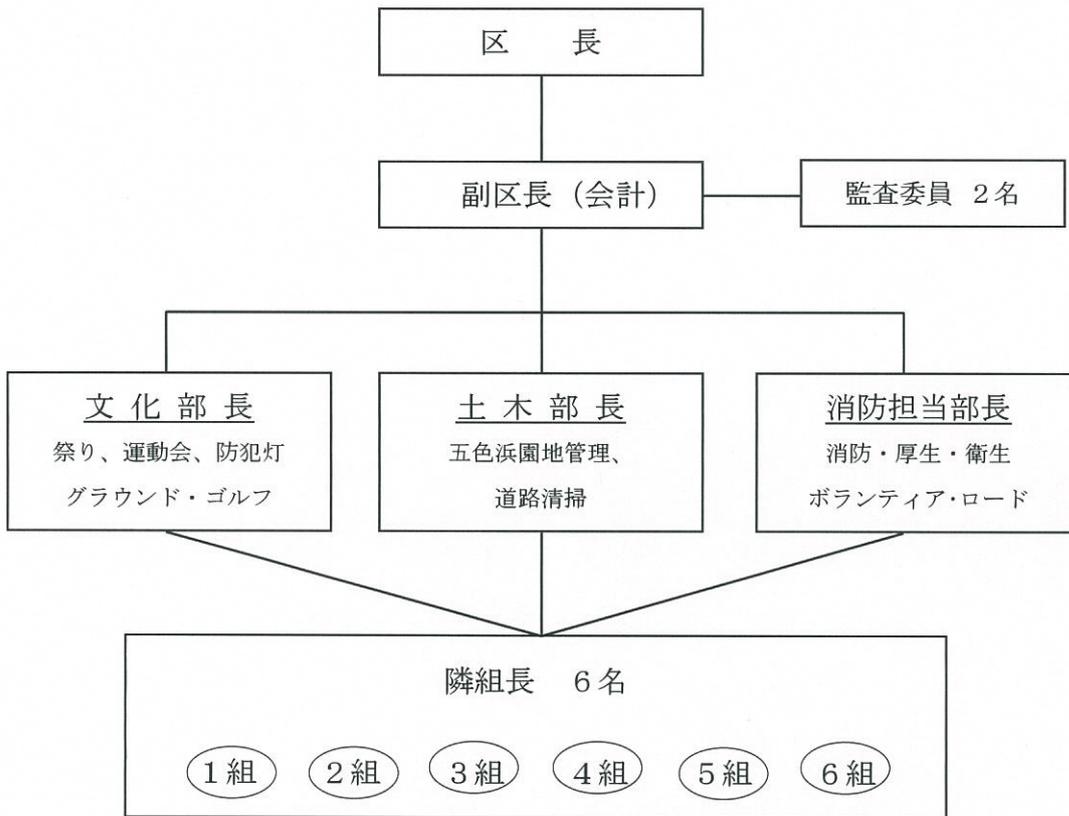


(4) 地区組織と主な年間行事

自治会役員会をはじめ、公民館、交通安全協会、お寺・神社などの役職を複数兼ねることもあります。地区内組織の運営、各種団体との連携を図りながら活動を行っています。

地区組織や主な年間行事は、次のとおりです。

■塩江区組織図 (平成30年1月1日現在)



その他関係団体等の役員

浜詰財産管理委員 (2名・監査委員1名)
寺総代 (2名)
氏子総代 2名)
神社神主
京丹後市民生委員 (1名)
浜詰地区公民館運営委員 (2名)
社会福祉協議会社会福祉委員 (1名)
交通安全協会代議委員 (2名)

■塩江区主な年間行事予定

月	行 事 予 定
1月	こもり（神主村祈祷） 地蔵講 塩江区初総会
2月	隣組長会議
3月	早尾稲荷神社参道草刈り 早尾稲荷神社初午祭 赤崎神社祭礼
4月	クリーン活動 自主防災組織会議
5月	敬老会
6月	道路清掃（全区民参加） 地区内草刈り（庵寺・地蔵周辺）
7月	川すそ祭（愛護会）
8月	地区内草刈り（庵寺・地蔵周辺） 村施餓鬼 自主防災組織防災訓練
9月	グラウンド・ゴルフ（雨天ボウリング） 隣組長会議
10月	クリーン活動
11月	
12月	塩江区監査会 塩江区年度末総会 地区内草刈り（早尾稲荷神社周辺）
通年	塩江区役員会（毎月1回） 五色浜の点検（毎週1回 ただし、7・8月除く。）



第3章 地区の実情・実態

1. 区民アンケート

まちづくり計画は区民の総意をもって将来の目標を定め、実現に向けて区民総出で進めていくことが大切です。そのため、区民一人ひとりの思いを集めることから始めることとして、平成29年12月、高校生以上を対象に「塩江まちづくりアンケート調査」を実施しました。（集計結果は、後頁をご覧ください。）

2. アンケート調査結果

その中で、アンケート調査には男62・女52・計114の回答をいただきました。

当地区の家族構成は、夫婦、二世帯・三世帯が同居する家庭と回答する方が多く、半数以上が塩江地区でこれからも暮らしたいと回答されています。その理由には「生まれ育ったところ」、「のんびりした生活が好きだから」という回答でした。また、「他の場所で暮らしたい」という回答もあり、「買い物や交通の便が悪い」、「公共施設や文化施設が遠いから」と、日常の不便さを感じている方も多いです。

「この地区の10年後はどのようになっていると思いますか」の問いに対しては、回答者の70%以上が「淋しくなっている」と回答され、その理由は、空き家の増加・少子高齢化・人口減少などがあげられ、今後の取り組み事業には移住者の受け入れ・婚活事業の実施について多くの回答があります。

地区内で修繕や整備が必要と思われる施設には、墓地・参道の整備、婦人の家の改修、道路・神社・庵寺の整備の順で回答が多くなっています。



3. これからの地域づくり（アンケート結果から）

これからも地区内で暮らしたいという回答は多くなっていますが、これは、回答者の年齢が高く、長年住み慣れた地でのんびりとした生活パターンが浸透していると思われる。できれば他の場所で暮らしたいという回答では、気がねなく一人で買い物ができる、病院まで行けるなど、日常生活に欠かせないものへの不便さがうかがえます。

人口減少・少子高齢化はほとんどの区民が感じているところで、今後の取組事業で期待されているのが移住者の受け入れ（移住・定住促進）と婚活事業です。

地震・津波などの防災対策に関しては、どこに避難したらよいか場所がわからない、避難した先（婦人の家）の耐震化が気になる、災害が夜間発生した場合は避難経路が分かりづらいなど、区民それぞれに不安もあることから、避難誘導表示板の設置や避難訓練の定期的な実施、避難先の施設改修など、地区にあった取り組みや施設整備が期待されます。

第4章 地域づくりの基本構想

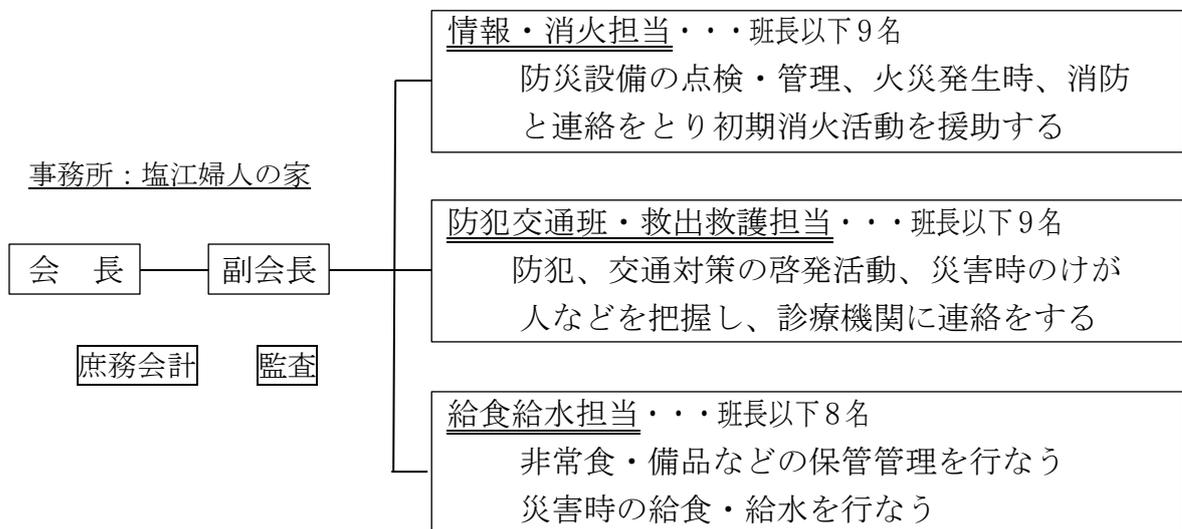
1. 施設整備

- (1) 地区の拠点施設である「塩江婦人の家」の屋根・外壁等の大規模改修
- (2) 墓地・参道の整備は、地区内の高齢化を進む中での懸案事項
- (3) 建築から60年が経過し老朽化の著しい「庵寺」の改修

2. 防災・防犯

- (1) 夜間の防犯対策の充実、避難経路の安全確保のための防犯灯設置
- (2) 自主防災組織の健全な運営と推進、区民の危機管理に対する意識の向上

■ [塩江区自主防災会 組織図 (平成29年1月現在)]



3. 地域コミュニティ

- (1) コミュニティ広場を活用した区民相互の交流と健康づくりの推進
- (2) 日常的に活用しやすいコミュニティ広場の整備（水道、トイレなど）
- (3) 地区の環境衛生、美化活動の向上を図るため、ゴミステーション収集枠整備、更新等

4. 地域事業の取り組み

- (1) 空き家、危険住宅への対応と、移住・定住希望者に対する情報提供
- (2) 独身者へ婚姻を促すための婚活事業の取り組み

第5章 地域づくり計画の実現に向けて

1. 地区施設整備

(1) 集会施設の改修

塩江婦人の家は、昭和56年に建築されてから36年を経過しました。

海からの潮風に吹かれて経年劣化は著しく、雨漏りの発生、外壁・内装建具の改修に合わせてトイレの水洗化など大規模な改修が早期に必要です。



改修工事は多額の費用がかかり、区民の負担も大きくなるがそのまま放置することができないため、市への補助金要望を行い支援を得ながら早期改修を進めます。

(2) 道路環境

府道浜詰網野線の塩江峠は、隣接する浜詰地区との間にあって幅員が狭くカーブも多いことから、長年にわたり要望活動を行ってきた結果、平成26年度に工事が完了し地域間の移動が非常に楽になりました。この道路は地区内中心部を通る主要な道路で、改修の必要などところもまだまだありますが、地理的な問題、個人住宅との関係などもあることから、十分な協議検討が必要です。

(3) 墓地・参道の整備、庵寺の改修等

塩江地区の墓地は、海を眺める小高いところにあります。墓地へ続く参道は、一部コンクリート舗装はされています。しかし、墓地や参道は砂地で長年の風雨によって浸食され、海側へ傾斜しているところも多くあります。地区内参拝者は高齢化が進み足元が不安定になり、里帰りしてくる子どもや孫が安心して墓参りできるよう、墓地や参道整備は必要な整備と認識しています。

また、墓地から参道を通って庵寺（あんでら）に繋がります。「庵寺の正式名称は「東方庵（とうほうあん）」と言われ、地域の娯楽施設として芝居などが行われていたが、現在では、老人による念仏などで使用され、清掃整備も行われている。」と、網野町誌（下巻）で紹介されています。塩江地区の庵寺は、昭和32年12月に焼失しその後再建されたものの、60年が経過することから老朽化が著しく、施設修繕・改修を望む声があります。

墓地・参道の整備、庵寺の修繕・改修は大きな事業になることから、整備の方法、補助事業の有無など調査研究を行いながら検討します。

2. 防災・防犯の取り組み

広域で大規模な災害が発生した場合、市役所・消防・警察などの機関だけでは十分な対応ができない事態が考えられます。このような時は、住民が一致協力して地域ぐるみで取り組むことで有効な初期対応が図られることから、平成29年1月「塩江区自主防災会」を立ち上げました。

区民の安心安全を確保するため、地区の実業にあった資機材等の配置、夜間の防犯対策と避難経路の誘導を兼ね備えた灯器の設置などについて、市の支援を得ながら整備を進めます。

また、自治区と自主防災会の連携により、自主防災会の健全な運営と区民の危機管理に対する意識向上を図るため、非常時のスムーズな避難行動に繋がる訓練の実施、啓蒙活動などに取り組みます。



3. 地域コミュニティづくり

平成27年度に市から移譲を受けたコミュニティ広場は、区民のコミュニケーションの場として、特に高齢者のグラウンド・ゴルフでよく利用されていますが、トイレ設備がなく設置を希望する声があります。

また塩江地区の東側には、古くから海遊びの場所として親しまれてきた「五色浜」があります。この五色浜は、「古く、丹後の守であった松平保昌が光沢のある大変美しく色とりどりの石を皇后様に奉ったところたいそう喜ばれこの浜を「御志起浜（ごしきはま）」と名付けられた。」との伝えがあり、その後「五色浜」と呼び名が変わっています（「浜詰のあゆみ」より）。数十年前までは、入江を利用した釣堀が整備され賑わいもありましたが、現在はその姿はなく、公園広場や駐車場などが整備された五色浜園地として利用されています。

地域コミュニティづくりの場となる広場・公園は、地域にとって大切なもので、今後も引き続き区民の協力を得ながら維持管理に努めるとともに、設備の整備などに対し有効な補助事業等の支援がないか調査研究を行います。

塩江区民のごみステーションの収集ごみについては、今まで各個人から出されるごみ袋にブルーシートをかけて野良猫やからす等の被害から対策を講じてきたが、新たにステンレス製のごみ収集枠設置や整備を行う等、環境衛生や美化活動の向上により、住みやすい地域づくりを目指します。



4. 地域事業の取り組み

(1) 空き家対策

地区内には、空き家となった家屋があちらこちらに点在します。空き家は年月の経過とともに劣化が著しく、強い海風により屋根瓦が飛ばされることもあるため、隣近所で生活する区民は、空き家の処分、危険対策に関する声が上がります。

しかし、空き家でも家屋に対する権利が発生することから、法律等に基づいた対応が必要であり、区民の安心安全を図るため、関係機関等と連携を図りその内容を推進していきます。

(2) 移住・定住促進

当地区では、平成29年8月「移住促進計画」を策定して移住者の受入体制を図ったところです。移住希望者は海に面した地区で空き家を求めやすいという情報もあることから、この地区の特色を活かし、空き家の所有者の理解を得ながら、有効な情報発信に努めます。また、定住後は地区行事への参加に向けた声掛けを行うなど、積極的なコミュニケーションを図ります。

(3) 少子高齢化対策

地区人口は、平成10年3月末で294人でしたが、平成29年3月末では182人で、112人(38.1%)が減少しました。平成29年3月末人口のうち、30歳以下は22人、10歳未満は2人と極端に少なく、一方、65歳以上の高齢者に至っては73人で40%以上を占めていることから、近い将来には65歳以上の人口が50%を超える「限界集落」を向かえることが予想されます。

このことから、地区役員を中心としながら地域の見直しを図るとともに活性化に向けた事業の取り組みなど計画に進めようとするその一つが「塩江まちづくり計画」です。

(4) 婚活事業

平成29年3月末の20歳以上40歳未満は19人・約10%と少ないですが、各家庭の末永い繁栄と地区の活性化には人口増加が必須であり、そのためには、地区内独身者に向けた婚活事業の実施、他地域で催される婚活事業の情報提供など行います。

☆☆ ☆☆ ☆☆ 資 料 ☆☆ ☆☆ ☆☆

1. 地区役員及び計画推進員

☆ 地区役員：船戸英行、吉岡忠昭(計画推進員兼務)、松本敏和(計画推進員兼務)
松本喜治、塩田博和

☆ 計画推進員：船戸正信(委員長)、船本庄一、山本義広、小川妙子、井上政代
区役員2名



2. 経過記録

実施日	作業内容	出席者等
H29. 11. 6 (月)	区役員会にて「地域まちづくり計画」の策定について ※地区計画を作成することについて確認	区役員 5名
H29. 11. 11 (土) 12 (日)	計画策定に係る委員の選出依頼を行う	区役員 2名 区民 5名
H29. 11. 17 (金)	「塩江まちづくり計画」の策定に係る区役員及び選出委員初会議 ※地域まちづくり計画策定の必要性について ※代表者の選考 ※スケジュール、区民アンケート実施など協議	区役員 3名 選出委員 7名
H29. 11. 30 (木)	アンケート調査の実施について ※対象者、配布・回収方法、調査項目など	計画推進員 7名
H29. 12. 5 (月)	アンケート調査票について ※修正後の最終確認	委員長他 1名
H29. 12. 7 (木)	アンケート調査票製本、隣組配布準備	計画推進員 7名
H29. 12. 9 (土) 10 (日)	アンケート調査票隣組配布	計画推進員、隣組長
H29. 12. 19 (火)	アンケート調査票回収 (114 件)	隣組長、計画推進員
H30. 2. 16 (金)	アンケート集計結果及び計画素案について意見交換、今後のスケジュール確認	区役員 3名 計画推進員 7名
H30. 3. 18 (日)	塩江まちづくり計画(案)に関する区臨時総会	区役員、計画推進員 区民